

令和7年度 後期 上田市立北小学校 学校自己評価シート

<後期報告>

○7月 第1回児童アンケートと教職員アンケート実施

○12月 第2回児童アンケートと教職員アンケート、保護者アンケート実施

評定＝A：できている B：だいたいできている C：あまりできていない D：全くできていない

学校教育目標	総合評価
花とみどりと笑顔の学校	よく学ぶでは「自分で考えている」という項目が向上した。自分で考え、意見を出し合う学習環境の構築が進んでいると考えられる。よくふれあうでは、地域との強力な連携（北小応援団）や、児童の主体性を尊重する「ハッピータイム」などの独自の取り組みが成果を上げている一方で、異学年交流の継続性や挨拶の習慣化には依然として課題が見られた。遊びを単なる体力向上だけでなく、自分の好きなことを見つけ、心を良い状態に保つ（ウェルビーイング）ための重要な時間と位置づけていきたい。また、異学年交流を計画的実施し、年間を通じてペア学級やふれあい学級の交流を教育課程に位置づけることも考えられる。地域課題の解決を通じた探究学習をさらに推進していく。「全児童を全職員で育てる」を合言葉に、一人ひとりの状況に応じた適切な支援と情報共有を徹底したい。
10年後、20年後に大輪の花を咲かせるための今の創造 ～よくふれあい・よく学び・よく遊ぶ～	

領域	重点	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
学校教育	よくふれ合い	あいさつの響く学校づくり	・「5つのあいさつ」（1日に何度も、相手を見て、会釈して、笑顔で、自分から）をおこなっている。	・児童会を中心に行っている「あいさつ運動」から、あいさつに意識が持てている子が多い。また、自分から進んで挨拶をする子が多い。 ○相手の目を見てあいさつをすることが今後の課題と思われる。	B	・一学期の終業式での校長先生のお話『いつでも どこでも ○○○』から○○○に入る言葉を考え、自分なりの挨拶を考え実行してきた。
		かかわり合う場の確保	・北小応援団と連携した活動を積極的に行い、地域のもてる力を有効活用している。	・学年ごとの活動を地域の方々とともに行ったり、児童会活動を通して地域の方々や交流したりすることができている。	A	地域の方々に「参加してもらおう」というスタンスではなく、ともに活動することが子どもたちにとっての日常となるよう、一層の充実を図ってきたい。
		学年の枠を超えて友だちと交流する場の保証	・学年内やペア学級さらには全校で友だちとふれあう活動 ・子どもたちのアイデアを生かした児童会活動を行っている。	・他学年や他のクラスなど、クラスの枠を超えて活動を行うことができた。 （児童会活動を中心に） ・ペア学習を取り入れ、自分の考えを伝えたり、友だちの考えを聞いたり、自信をもって学習に取り組めるようにしてきた。	B	・教科での学習などで、伝える活動場面において、積極的にペア学習を引き続き行っていく。 ・学年内や他学年と、交流を引き続き行っていく。
	よく学び	子どもたちの「問い」を真ん中にすえた授業の創造	・以下の点を大切に授業を行っている。 ・子どもの問いを真ん中にすえた授業展開 ・これまでの学びを活用・発揮できる学習過程 ・多様な他者とかかわりあうことができる学習環境	・後期となり、授業の内容が深まってきたことと「いつでもどこでもお隣さん・ご近所さん」「自分で考える・考えを書く・考えを出し合う」ということを重要視してきたことで、主体性が育ってきている。	A	・全職員が共通認識をもった上で来年度の研究テーマを設定し、授業づくりに取り組んでいく。 ・村瀬先生の授業クリニックを引き続き行い、個々に授業改善を行っていく。また地域の方にも授業を見ていただき、子どもたちのことを研究会に参加し一緒に考えた取り組みがよかった。来年度も、地域、他校（三中区を中心に）とも連携して授業改善に取り組んでいく。
	よく	「ハッピータイム」（外遊びやかかわり遊びの日）の位置づけの	・子どもと一緒に外遊びを含む、関わり遊びを楽しんだり、子どもが遊びに進んで取り組めるよう働き	・毎週水曜日に、30分間の遊びの時間「ハッピータイム」を確保していることは、か	A	・ハッピータイムの時間に、遊び方や友だちとの関わり方で困っている児童がいな

	遊び	継続充実と、遊びの時間の確保	かけたりしている。	かわり遊びにおいて効果的であると感じる。 ・ハッピータイムの中でと、地域の方と触れあえる活動をしたことで、異年齢のかわりも増えた。		いかを引き続き教師が把握していくことが必要である。
学校経営	と保護者地域との連携	情報の発信	教育方針・取組やその成果・連絡など、必要な情報を定期的に発信している。	・学校だよりや学年通信や学校 HP の更新を継続し、学校の取組や子どもたちの様子を定期的に発信することができた。 ・欠席連絡やおしらせや連絡を tetoru に集約し、情報発信の基盤整備が進んだ。	A	・来年度より学校だより等の配信を tetoru に統一し、情報が確実に届く体制を整える。 ・発信内容や頻度を工夫し、学校の教育方針や取組の成果がより分かりやすく伝わるよう改善する。
		PTA・ボランティアとの連携	PTAやボランティアとの連携を十分行っている。	・PTAのあり方が問われている中、地域の方や学校ボランティア、学校応援団と協力し、PTCA作業、防災体験等の企画をすすめ、北小ならではの活動を進めることができた。 ・PTA主催の北小まつりやPTA講演会を行い、児童や保護者が数多く参加することができた。 ・フラワーロードの花植や落ち葉拾いなど地域の方やボランティアの方の協力で学校の環境整備を進めることができた。また、子どもたちの交流を進めることもできた。	A	・北小学校の多くの活動には、PTA、学校応援団、地域の方々の協力があるからこそ実現できるものが多いことを発信し、これからも地域によって支えられている北小学校であることを伝えていく。 ・100周年や国型コミュニティスクールへの移行等、これまで以上にPTAをはじめとした地域の諸団体との協力体制が必要であることを認識し、子どもたちのためにどのような活動が可能なのか、改めて問い直していく。
		一人一人に応じた支援	全職員で児童を支え、一人一人に応じた支援をおこなっている。	・様々な学習の場を保证するために、心の相談員や支援員等の配置を工夫することができた。また、学級担任が特別支援教育や通級指導教室担当の職員と連携を取りながら、個々に応じた支援の充実を図ることができるようにしてきた。	B	・学習の場について、利用を望む児童の増加や状況の多様化にいかに対応していくかが課題となる。特に、限られた職員数でどのように児童を支えていくか、配置や時間割等の工夫を図っていく必要がある。